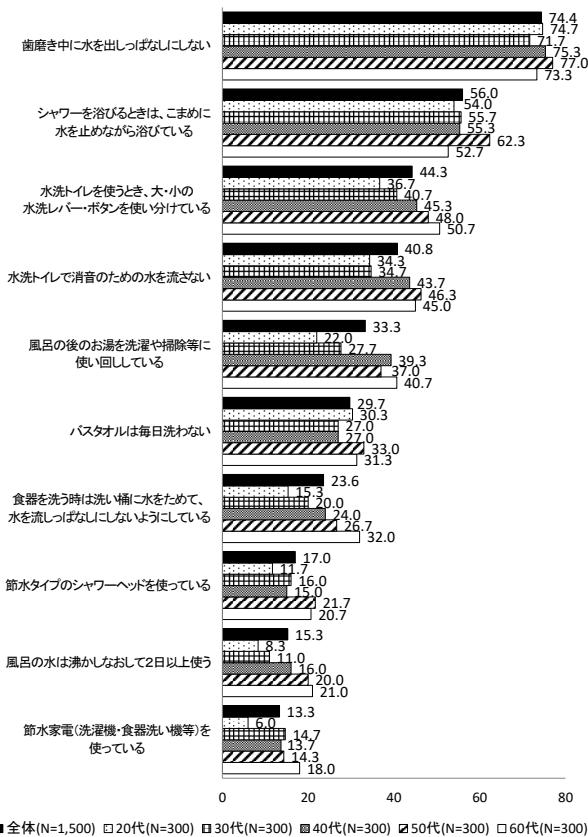
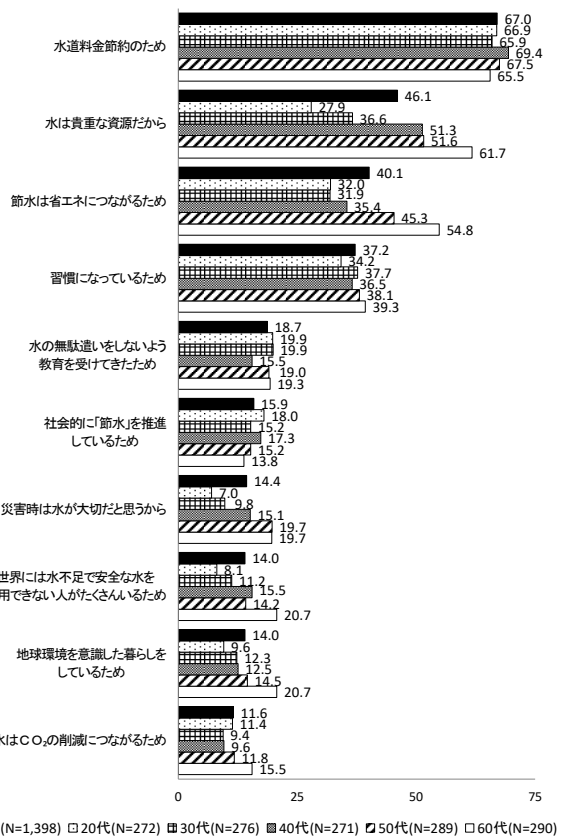


日常生活で実践していること（複数回答／単位：％） ※上位10項目



実践する理由（複数回答／単位：％） ※上位10項目



沖大幹先生による解説 ～Oki's View～ ③

【節水行動】

私たちは、家庭での普段の暮らしが普通だと思っているが、こうしてアンケートを取ってみると、家庭によって実は千差万別なのではないか、ということに気づかされる。歯磨き中に水を出さないと答えた人が74.4%ということは、世間の1/4の人は歯磨き中も水を出しっぱなしということだろうか。何秒間磨くのだろう。10秒くらいで終わるから気にならないのだろうか。

シャワーを止めない人がいるのは想像できる。旅行中の宿泊先だともっと止めない人が多いのではないだろうか。しかし、トイレの大小レバーを使い分けている人が半分以下というのはある意味衝撃的である。技術者が工夫をして小ならさらに2～3割節水できるようにしているのに、なぜ利用しないのだろうか。若い人の方が使っていないので、生まれた頃に大小の区別がなくて育った世代は区別しない、というわけではない。急遽周囲に聞いてみたところ、「昔に比べるとそもそも節水トイレになっているので大でもそんなに水は流れないし、やっぱり多く流した方がきれいになりそうな気がするから」とのことであった。

バスタオルを毎日洗わない人が3割。最近では、ホテルでも節水や環境保全、コスト削減のために毎日洗わない選択肢を顧客に提供しているのに、残りの7割の人々は毎日洗っているということだろうか。

さらに、節水を実践する理由として、46.1%が貴重な資源だから、と答えている。シニア層は60%越え、若者は30%未満であり、Q16【水とのふれあい】でも述べた通り、若者を中心とする半分以上の生活者はいま水を貴重な資源とは思っていないのだと推察される。気にしなくてよくなったのはある意味では素晴らしいことである。

また、教育を受けてきたため(18.7%)よりも習慣になっているため(37.2%)の方が倍近く多い。教わるだけではなかなか行動には結びつかず、家庭での習慣にするのが大事であることが窺われる。

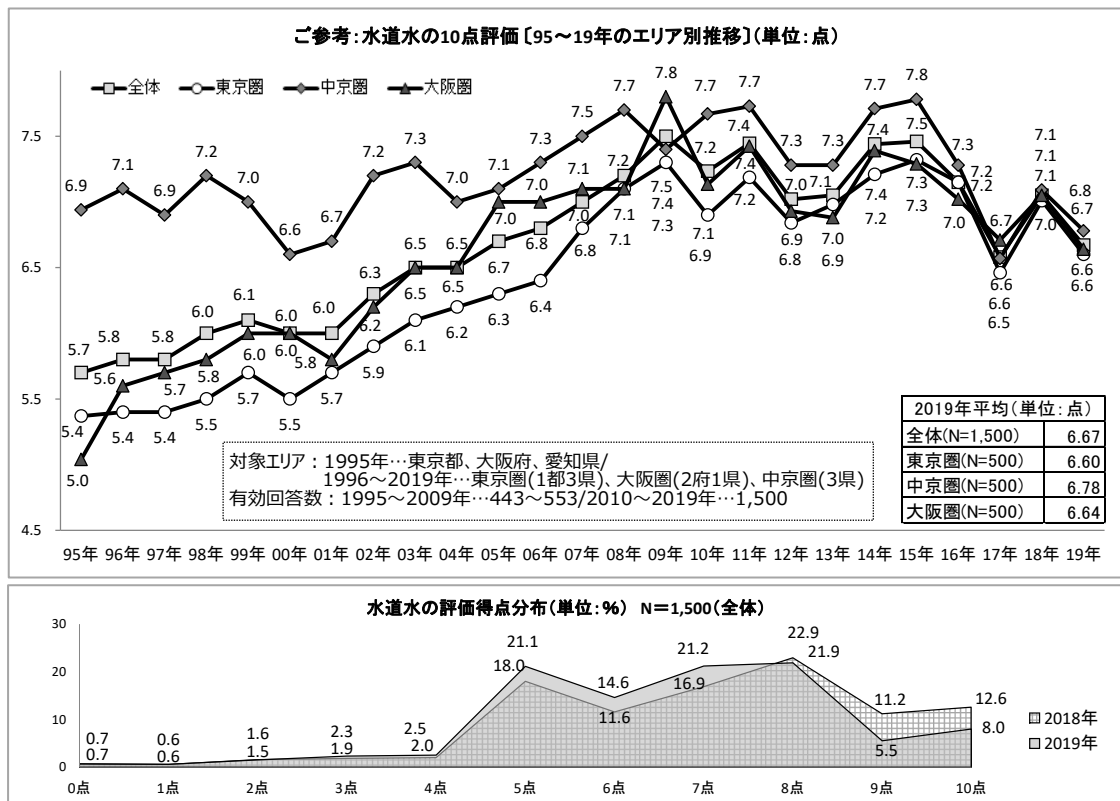
水道水に関する意識

Q.水道水を10点満点で評価すると？（0～10の整数を自由回答）

◇高得点回答者減少で、平均が6点台に低下。

昨年の調査では、平均点が7点台を回復した水道水の10点満点評価ですが、今年は、全体の平均が昨年から0.38ポイント減の6.67点、東京圏が0.41ポイント減の6.60点、中京圏が0.31ポイント減の6.78点、大阪圏が0.41ポイント減の6.64点と、いずれも6点台に逆戻りする結果となりました。

点数別回答率をみると、10点満点をつけた回答者の割合が昨年から4.6ポイント減の8.0%、9点の回答者が5.7ポイント減の5.5%と高得点層が減少した一方で、5点～7点の回答者層が増加しており、これが平均点を下げた要因になっていると考えられます。



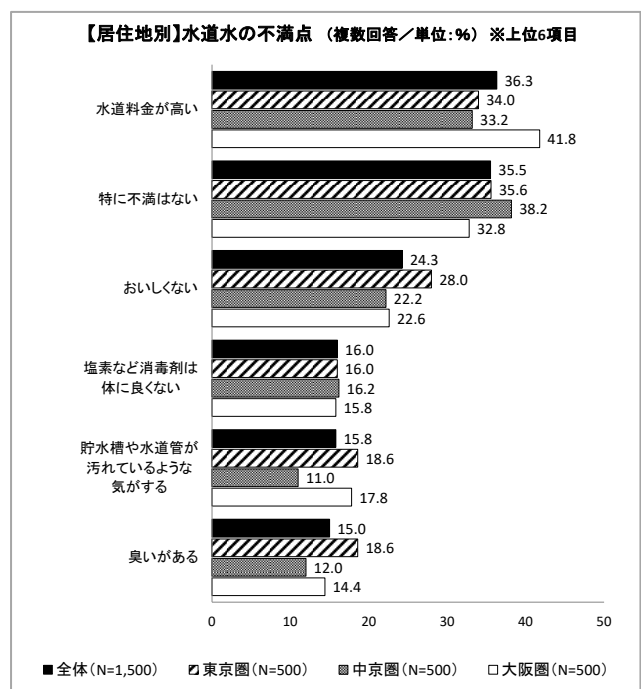
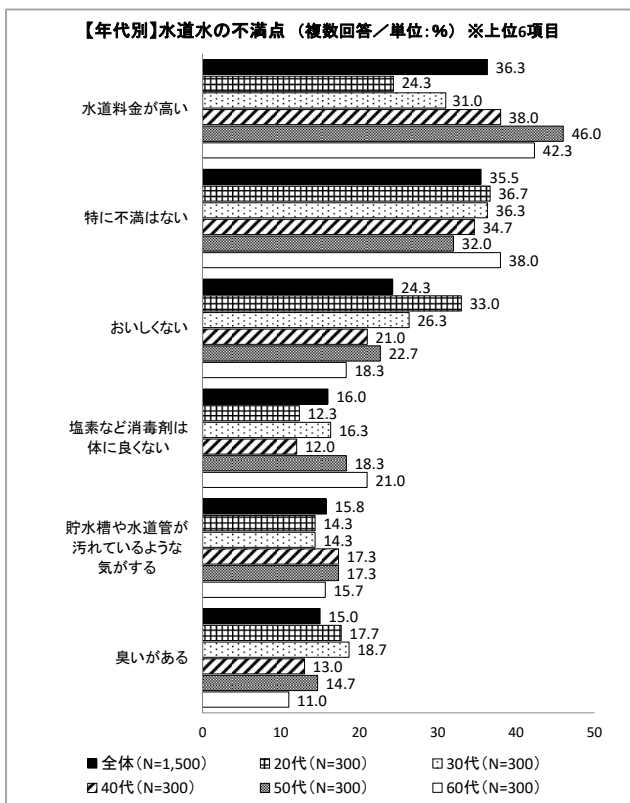
## Q.水道水について不満を感じていることは？ (8択+その他+特に不満はない)

◇全体1位は「水道料金」も、年代・居住地別で違いあり。

水道水への不満については、昨年に続き「水道料金が高い」(36.3%)が全体の1位となり、次いで2位「特に不満はない」(35.5%)、3位「おいしくない」(24.3%)、4位「塩素など消毒剤は体に良くない」(16.0%)、5位「貯水槽や水道管が汚れているような気がする」(15.8%)となりました。

「水道料金が高い」は、50代(46.0%)・60代(42.3%)で4割を超えており、これらの年代が全体の数値を押し上げていることが読み取れます。一方、「特に不満はない」を年代別にみると、20代・30代は36.7%・36.3%で、ともにトップ回答でした。また、20代の不満点は「おいしくない」(33.3%)が最多となり、「水道料金が高い」(24.3%)こと以上に、味への不満を感じていることがうかがえる結果となりました。

居住地別では、大阪圏の「水道料金が高い」が4割超(41.8%)と抜けて高く、逆に東京圏・中京圏は、「特に不満はない」が「水道料金が高い」を上回りました。



【水道水満足度】

1995年から2009年にかけて着実に上がっていた水道水への評価も、人口減と歩調を合わせるかのように上がらなくなり、2015年以降はやや減少傾向にあるように見える。水道料金が高いという不満が多いが、瓶詰の清涼飲料に比べると千分の一程度と格安である。飲用としての評価点とのクロス集計(下図)をみると、料金に不満がある人の点数は高得点から低得点まで幅広く分布していて、あまり評価には影響していないようであり、むしろ、味や塩素、水道管の汚れが気になる人が評点を下げている様である。

大阪市と大阪府の二重行政の象徴として水道が取り上げられた大阪では、料金に対する不満が41.8%と、東京(34.0%)や名古屋(33.2%)に対して大きく、ネガティブキャンペーンに我々がつい反応して刷り込まれてしまいがちであることを示唆している。

〈ご参考〉水道水の不満点×飲用としての水道水評価点

	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	平均点
全体	1.9	1.8	2.1	6	5.4	21.7	12.1	15.7	18.6	6.9	7.7	6.25
水道料金が高い	2.4	1.8	2.6	6.1	5.7	20.9	14.7	17.2	19.1	5.9	3.7	6.03
おいしくない	4.4	4.4	5.8	15.1	11.5	31.9	14.3	7.7	3.6	0.3	1.1	4.48
塩素など消毒剤は体に良くない	3.3	2.5	3.3	8.3	6.3	24.6	12.5	16.3	17.1	4.6	1.3	5.61
貯水槽や水道管が汚れているような気がする	4.2	3.0	5.1	8.0	10.1	24.5	15.2	15.6	12.2	2.1	0.0	5.17
特に不満はない	0.9	0.6	0.4	2.6	2.4	16.9	7.5	15.9	24.6	11.3	16.9	7.27

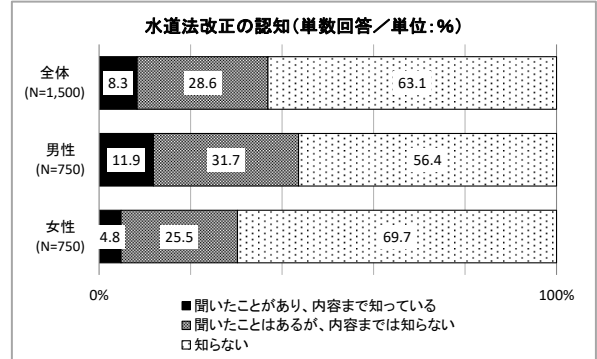
【特別調査】改正水道法に関する意識・実態

昨年12月に、【1】広域連携の推進（スケールメリットを活かして効率的な事業運営が可能）、【2】適切な資産管理の推進（水道管の計画的な更新や耐震化を進める基礎）、【3】官民連携の推進（民間の技術力や経営ノウハウを活用できる）を主な内容とした改正水道法が公布されました。そこで、ミツカン水の文化センターでは、その施行に先立ち、改正法に関する一般生活者の意識・実態を把握するための調査を実施しました。

Q.水道法が改正されたことの認知は？（3択）

◇内容まで知っている人は1割未満。

はじめに、水道法が改正されたことを知っているかについて聞いたところ、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した人は全体の8.3%と1割に満たず、6割以上（63.1%）の人が「知らない」という結果でした。男女別にみると、「内容まで知っている」は男性11.9%、女性4.8%と2倍以上の差があり、7割近く（69.7%）の女性は「知らない」と回答しました。



Q.水道事業の民間運営が実現しやすくなったことの認知は？（2択）

◇「知っていた」は全体の約3割。“改正認知あり”の人に限定すると6割超。

今回の改正で、民間企業による水道事業の運営が、より実現しやすくなったことについての認知は、「知っていた」と回答した人は全体の3割程度（30.7%）にとどまりました。

ただし、前項の改正されることの認知について、聞いたことがある人（「内容までは知らない」含む）に限定すると、63.2%が「知っていた」と回答。改正水道法に聞き覚えがある人にとっては、水道事業の民間運営が関心の高い話題であろうことがうかがえました。

